

第4回栗東市地方創生懇談会議事要約

平成28年1月19日（火）午前9時30分～
栗東市役所4階 協議会室

1. 開会

（会長あいさつ）

前回の懇談会では大変熱心に今後の地方創生について意見をいただいた。本日は、皆様方のご意見を踏まえた地方創生の素案を協議いただきます。より良いプランにするため、今日もしっかりとご議論をいただければと思うのでよろしくお願いします。

地方創生について、国でもこれを加速化させる交付金や、財政措置等が議論されている。本市のように比較的都市圏にあり恵まれた地域にはそうそう支援は望めないが、一方では恵まれた条件をさらにどのようにより良く活かしていくか、それぞれの地域の自治力、市民の力を大いに発揮してより良い案をつくり上げ、今後の地域の活性化に結び付けていければと思っているので、よろしくお願いします。

（市長あいさつ）

ご多用の中、第4回栗東市地方創生懇談会にご出席いただきありがとうございます。素案をまとめる間、皆様から多くの意見をいただいたおかげで、ここまで来られたことに感謝申し上げます。皆様方のいろいろな思いがここに凝縮され、そして栗東市の未来につながっていく大切な総合戦略です。

補助金ありきの総合戦略ではなく、栗東らしく、栗東ならではのもの、みんながいきいきと活力を持って活躍できる社会をつくっていきたいと思っています。それぞれの立場で、経験されているいろいろな思いを意見として提案いただければと思います。

皆様にいろいろな形で支えていただいたことに重ねてお礼申し上げるとともに、総合戦略に定める内容を着実に実行していくこともあわせてお約束し、挨拶とさせていただきます。

2. 委員紹介について

（省略）

欠席：妻鹿会長、田口委員

3. 協議事項

（1）栗東市総合戦略策定（素案）について…資料

《資料説明（事務局）》

（省略）

《質疑応答》

委員

「馬」は大きな特徴だが、今の資源だけでの集客増は難しいと考えている。私は10年ほど前、馬に関するホームページを開設していたが、すぐにアクセスが100万人を超えた。「馬」はギャンブルだけでなく、馬、騎手、調教師また競走馬が走る姿を見るのが好きなファンも多い。競馬に勝つためだけでなく、自分が選んだ馬が育つ過程が見たいファンも多くいる。その人達が栗東に来たとき、多くは栗東駅前でお会を開いた後、トレーニング・センターへ行くが、交通機関がない。自家用車やタクシーを使って案内している。そのあたりの強化や、騎手や調教師もその人たちの中ではスターのようになっているので、そういう人を前面に出してはどうか。トレーニング・センターはギャンブルのイメージが強いと思うが、市内でも競走馬がいるところとしか知らない人が多いのではないか。そうではなく、このように馬が育っているというところにスポットを当てるなどの売り方をすれば、もう少し「馬のまち」栗東としての何かが出るのではないか。日本中央競馬会でも戦略を練って、コマーシャルを放映したり、今は芸能人も多く馬主になっている。また、一口馬主として月3,000円とか5,000円、多くて10,000円など一般の方も馬主になっている。それらは有名な馬ではなく、皆さんが知らないような馬だが、それでもその馬を応援して、情報を探し、いろんなところに行っておられる。馬を売り出すならそのようなところにも目を向け、違う側面からも売り出してはどうか。

事務局

戦略の中でも、いろんなところで馬を活かしたまちづくりとして、ホースパークプロジェクトとして記載しているが、馬を活かすことは非常に多くの分野で活用できる。例えば、観光、福祉・医療や教育、レジャー、スポーツ、そして最終的には雇用にも結びつくと考えている。騎手や調教師に目を向けることについては14ページに「ブランドづくりとシティプロモーション」があるが、市でシティセールス戦略をつくっており、その中で人の顔を売り出すことも考えている。今後、十分に検討していきたい。

委員

先日のテレビ番組で、阪神淡路大震災後21年目に初めて検証されていたが、復興されていないものが多くある。あの地域であってもそういうところがあるということで非常に興味深かった。国の考え方の中にも「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守る」、「安心して働ける」、「安心な暮らし」、「安心な子育て」などが多くある。今後、南海トラフを初めとした地震災害、滋賀県までが境目という資料を以前見たことあるが、生きるという意味での安心、安心した子育てとか安心して働けるなど、安心安全というものがまちの魅力になるのではないか。しかし、安心や安全に対する具体的な部分が多く記載されていない。当然やっていくことであるかもしれないが、

まずこのまちに住む一人ひとりが、安心して生きることができる。そういうベースの部分にも着目して、安心して生きることができる。安心して住むことができるようなものも重要であると感じた。ここから人が移り住まない、ここに住んでいたら安心して、育てていける、そういうまちだということを記載してもよいのではないかと。

事務局

これは非常に基本的なことであり、総合計画においても今日まで取り組んできており、それをまちの魅力として発信してはどうかと言うことであるが、この魅力の発信の部分に何か散りばめられればと思う。具体的には現在実施している事業として考えていきたい。

事務局

市長の就任以来、「いつまでも住み続けたい安心な元気都市栗東」、5つの安心を申し上げてきた。所信表明や施政方針にも「安心」をキーワードとしている。

今回、これを総合戦略として進めていくために、栗東のいいものをもっと伸ばしていこうと思っている。「しごと」「子育て」をはじめとした多くの分野で、まずはそうした方向付けを示させていただいた。指摘された内容は、常に念頭に置いている。

委員

一昨年からJAとタイアップして金勝清流米を使った清酒の販売、昨年度はカボチャを使った焼酎等を開発されており、栗東市のブランド品とするよう努力されているが、金勝清流米は中山間地で栽培しており、今後、こだわって農業をしていくにも、大変な側面もある。現在、JAと個人とが協力して進めているが、市としてタイアップすることは考えているのか。

事務局

市として、こだわり農業や栗東ブランドの創出という観点で取り組みを進めているが、純米酒、焼酎などは事例の一つである。栗東産をブランド化して市外へ売り出していかは、農地の維持などの違った観点からも見る必要がある。特に、今後は売れる農産物を栽培しなければならない。様々な組織と連携する橋渡しをしながら展開をしている。最終目的は、売れる農産物をつくるということで、売れる場所の確保として、アグリや郷やこんぜの道の駅などいろいろな直売所との連携も深めて充実を図っている。

これらにさらに力を入れることで農業が守られる。また、栗東で農産物をつくることで、生きがいに繋がり、新規就農者を迎えられるように対応もしている。

委員

市内にある大野神社は人気アイドルグループの聖地と呼ばれている。実際、正月にも多くの方が訪れておられる。来訪者の交通手段は、近くの金勝コミュニティーセンターのバス停までバスに乗ってきて、そこから歩いて来られている。その場合、昼間の明るい時に道を歩いている場合はいいが、暗いときに道を歩く場合は、事故等が起

こらないか心配している。

委員

バスで人気アイドルグループの名前にちなんだ神社を回るツアーがある。大野神社には、それを利用して大野バウムやカフェもできており、それ含めて、栗東のツアーとして取り組んでも良い。また、初めて馬に親しむ日が開催された時、各学校から何人かが保護者と一緒に招待された。施設内を案内してもらって、馬に乗せてもらったが、私もすごく胸に焼き付いている。子どもにとってはこんなに立派な場所が栗東にあり、すごい宝物があるのだと感じた。これから栗東市を支える子どもたちに感動を与えることや、栗東にある宝物を大事にするという教育していくことも大事である。

また、核家族化も進んでおり、高齢者も孫との接点がないので、触れ合える場所を設けてはどうか。親が忙しくてスキンシップがないので、自分の思いが伝えられず、精神的に不安定な子どもが増えている。その解消ために、抱きしめる、話を聞く、褒めてあげることが一番であると思うが、そういうことをしてもらった子ども達は、栗東に帰ってくると思う。若年層や青年層そして私たち高齢層が栗東を支えて行く大きな原動力になればよい。

「確かな学力を育む、生きる力を育む」には、英語教育や学校教育のことばかり記載しているが、心の教育がもっと大事である。

農業は地域ごとに単体で農業をしている状態である。JAの農業まつりも商品売ると自分達で生産したものを紹介するだけで終わっている。そうではなく、栗東が一つになって、どうすれば地産地消を進めていけるかを考えていくには、市の指導が一番大事であり、呼びかけていただきたい。

事務局

大野神社については、市としても観光資源であると認識しており、金勝寺とも縁のある神社で、以前から金勝山のハイキングのコースにも入れてきた。今の禰宜がアイドルグループをキーワードに取り組みされていることに対して、ホームページでの発信や、マスコミに情報提供するなど、一定の支援をしてきている。今後もしっかり踏まえて支援していきたい。

一方、金勝寺を訪れるハイキング客向けに「金勝シャトルバス」を運行してきたが、大野神社への参拝やJR草津線からの利用も多い現状も踏まえ、昨年度より「こんぜめぐりちゃんバス」を運行し、大野神社や九品の滝なども観光してもらえるように、栗東市観光物産協会との連携も図りながらアクセス確保の取り組みを行っていく。今後も、現状を検証して、さらに利用しやすいように考えていく。

またアイドルグループのツアーについては、もっと活用することができないか地元とも話をしている。14ページには、湖南4市で湖南アクションプランと言う指針を策定し進めてきており、栗東市観光振興計画の策定を進める中で、将来的な指針を示したい。

農業については、出来る限りマッチングする形で進めているが、将来的には指摘されたような形にしていくように考えているものの、すぐに実現できるものではない。

売れる農産物を生産することに傾注することで、多分野に波及していく。それが「まち」「ひと」「しごと」になってくる。

安心について、山間部の資源の活用、農産物を生産していくことで、農地や山が持つ多面的機能を促進することで減災につながり、栗東市に住んでいて安心だと思ってもらえる。しっかりと機能して、農業、林業が維持しているよう、それに携わらないものでも、それをフォローできるような形を構築していく必要があると考えている。

事務局

馬に親しむ日は年に1回開催されているが、総合戦略においては、日常的に馬に触れることができる機会を作れることを考えており、ホースパークプロジェクトを掲載している。

教育の分野も含め、これは行政だけでは実現することができない。民間事業者やトレーニング・センターとも十分連携しながら、事業化に向けて検討していきたい。

事務局

心の教育や人とのつながりあるいは触れ合いの部分については、従来、地域や家庭で当然身につけていかなければならないものであったが、今は学校が担ってしまっている。例えば、小学校や中学校での生涯体験学習では、様々な場所に出向いて人と関ることでコミュニケーションを図れること。その中で人の温かさや、厳しさなどを学び、人との関ることなどの体験をしている。これは教育のベースになっていくものであり、「確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備」に記載している英語は、今、国際化により、英語教育が徐々に学校教育に、小学校まで拡大されている。

現状では、平成23年から5年生、6年生に週1時間外国語活動として学ばせるようになってきている。それも、平成30年頃には、5、6年生では英語が教科になる。

また、3年生、4年生まで外国語活動が徐々に拡大される、国際化に向けて、子ども達もしっかりと英語を習得できるように取り組みが進められる方向である。

本市でも、中学校は外国人を2名雇用、小学校では英語に堪能な3名により、市内9小学校を順番に回り、週1時間教えている。平成30年か平成31年には、小学校で9人ぐらいにまで増やしたい。

委員

絞る必要は無く、これも一つであると考えてもらいたい。

これだけを見ると、英語の必要性はみんな認識されているが、そうではなく、それもひとつだということ。それを前に出せないか。

17ページの具体的取り組みに、例として「学校給食の充実」を書くのであれば、「心の教育」を入れてもらえればと思う。

事務局

記載していない事項も含め、全て重要であることは十分に認識している。教育の分野だけではなく、他分野でも同様であるが、意見を参考にして、検討をさせてもらう。

委員

大野神社について、人気アイドルグループの可否に関らず、商業ベースで観光誘致をしていく場合に、行政がそれを前面に出して取り組むならば、しっかり整理しておいて慎重に進める必要がある。民間事業者が独自で進めている場合はよいが、行政が関係する場合は、大きな問題になることもある。

JR手原駅前に「ようこそ馬のまち栗東へ」と言う看板があるが、第五次栗東市総合計画後期基本計画にも「馬のまち栗東」は全く記載されていない。「馬のまち」を売り出して行くことを否定するものではなく、「馬」と言うのは全国でも珍しいところなのでいいのだが、ここで生まれて育った人からすれば、市民憲章の「緑と文化のまち栗東に喜びと誇りを持って」ということを言われてきた。

市民のうち、昔から居住している約5万人の方でも、競走馬の調教施設があることについては、ほとんどの方がご存知である。しかし、「馬のまち栗東」の位置づけをどれだけの人知っているのか。これを推し進めていくなれば、市民憲章を「緑と文化のまち栗東に喜びと誇りを持って」ではなく「馬のまち栗東に喜びと誇りを持って」に変えるぐらいの気概を持ってやっていかなければ、市民の想いと食い違ってくるのではないか。

トレーニング・センターとは手をつないで共に繁栄していかなければならないが、一定の押さえをしておかなければならない。総合計画とも整合する必要もあるが、ただそれを言っていると全国的に独自性のある特徴が出せないで「馬のまち」を売り出していくのであれば、しっかりと整理をしてもらいたい。

13ページの観光入込み客数の目標数値について、現在、約49万人であるとのことだが、5年後の目標が51万4,000人ではあまりにも低いのではないか。思い切って100万人ぐらいにしないといけないのではないか。今から2万人増やすことが、地方創生になるとは思えない。目標数は増やすべきである。

19ページについて、企業立地数の3,000件は立地している企業もあわせて3,000件で増減があるのでよいが、KPIには市内の「くるみん認定企業数」とある。これは子育てを推進している企業であるとのことだが、環境や産業について、市民憲章の「緑と文化のまち」を鑑みると、環境に配慮していること、例えばISOを取得している企業数を何社以上目指すなどの目標値にしたほうがよいのではないか。就労する条件に子育ての支援、例えば企業内保育所を設置していることなど、そこまで出来ない企業の方が多い。

事務局

大野神社について、独自で宣伝をされている。市としては、基本的に観光誘客の施設という認識はしているが、市全体や金勝地域での誘客の利便性を図っていく一つのスポットとして捉えており、これを市として率先して宣伝していくことは考えていない。大野神社として宣伝されることは良いので、市としては、市内への観光客の誘客において、こんぜの里やハイキングコースなども含めた観光資源の中の一つの観光資源として市全体で考えていくことになる。

「馬のまち」について、総合計画には位置づけがない。しかし、総合計画には全体的に散りばめられているものとして理解されていると考えている。総合戦略の施策として、全て馬ではなく、一つの分野として馬を位置づけるもので、その中で馬に関連して、市としていかに対応を図っていただけるかを考え、地域資源やシティセールスなどに活かせるよう、事業を推進していきたい。

数値目標とK P Iについて、もう少し数値等は検討しなければならないと考えている。K P Iは、基本的にアウトカム指標を設定することを前提にしており、個別具体的な少ない数値目標を持ってくるのではなく、例として示しているが、もう少し検討して行く必要があると認識している。再度検討し、わかりやすい具体的な数値を設定していきたい。

委員

19ページの「中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化による競争力の向上」について、中小企業に対する支援はやってもらいたいですが、現状でも国や県レベルでの中小企業支援策は多く設けられている。市単独の各種助成制度を創設することが本当に意味あるのかと思う面もある。例示された支援策についても、実際に産業支援プラザに行けば類似の施策が多くある。

県と市では財源も違うが、一方で国や県の施策の利用される場合が少なく、むしろ使ってもらえるところを捜している状況も見受けられる。これらの窓口を主に担っている商工会と連携して、市単独よりも広い目線で国や県の施策を有効に使う方がいいのではないかと考えている。具体的な部分はこれから検討されると思うが、独自制度の創設については無駄がないように考えていただきたい。

会長

今回出された意見を事務局で取りまとめ、今後、素案の修正等をする中で、最終案としてまとめていただきたい。その際には、この最後の取りまとめを一任いただくことで了解をいただきたい。

(会長一任)

個別の文言等の修正や数値や具体的施策について、今日の意見を踏まえ内容を修正する場合もある。しかし、基本的な内容として、この修正も含めて一任をいただき、この素案を基本的な枠組みとして承認いただいたということにする。

※概ね原案通り了承。

(2) その他

《資料説明（事務局）》

今回の意見について、事務局で整理し、会長と相談しながら素案を完成していきたいと考えている。

本日ご意見がいただけなかった部分は、ご意見シートに記入いただき、25日を目途

に、提出をしてもらいたい。その意見も踏まえ、最終整理をしたい。最終案の取りまとめ後、2月にパブリックコメントを実施する。

《会長》

今後の日程等について、何か質問等あれば。

説明があったように今後、各委員から25日を目途にシートを提出いただき、それも踏まえて事務局と私で案を固め、それをもとにパブリックコメントあるいは議会等への説明という手順を取り、最終的に市として総合戦略を確定する。

4. 閉会(副市長あいさつ)

懇談会の閉会にあたり、お礼のご挨拶を申し上げます。本日第4回目ということで、1回目から4回目にわたる懇談会に出席をいただき、またいろいろな貴重なご意見をいただいたことについて厚くお礼を申し上げます。本日このような形でまとめていただいたことについて、今後若干の修正を加えさせていたき、また調整をしながら成案として整理をし、3月中には総合戦略をまとめていくように考えている。その後、この事業を実施していかなければならない。

平成28年度は新たな市としてのスタートを切る年になるわけであり、今後とも皆様方には、栗東市に対し格別のご支援とご協力を賜ることをお願い申し上げ、閉会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

以上